

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



### 合田 直弘

5月29日に行なわれた日本ダービーを制したドウデュース(牡3、父ハーツクライ)の陣営が、ダービー翌日に、登録のある凱旋門賞への参戦を宣言。秋の大一番へ向けて、競馬ファンは早くも盛り上がりを見せている。

昨年の凱旋門賞が終わると同時に、欧洲のブックメーカー各社も今年の凱旋門賞へ向けた前売りをスタートさせており、6月1週目に英國のオーケスやダービー、仏国のダービーが終わると、歐州でも関係者やファンの間で、凱旋門賞が話題にのぼる。

6月6日現在で、各社が3倍から4倍のオッズを掲げて凱旋門賞の前売り1番人気に推しているのが、サー・マイケル・スタウト厩舎のデザートクラウン(牡3、父ナサニエル)だ。ご存知のように、4日にエプソムダウンズで行なわれたG1英ダービー(芝12F6Y)を2.1/2馬身差で快勝。クラシック制覇を果たすとともに、デビューワーからの連勝を3に伸ばした馬である。ダービーを前にしてスタウト調教師は、初距離となる12Fに対する不安よりは、キヤリア2戦と経験が浅いことを懸念していたが、発馬するとすかさず好位となり、難所と言われるタツテナムコーナーも無難にクリア。さらに、残り3Fで鞍上リチャード・キングスコートのゴーサインが出るとスマーズに加速するという、実際に見せて

続いて7~9倍のオッズで2番手評価となっているのが、ジアン・クロード・ルジェ厩舎のヴァデーと、ジョン&セイディ・ゴスデン厩舎のエミリー・アップジョンの2頭である。

ヴァデー(牡3、父チャーチル)は、5日にシャンティイで行なわれたG1ジョッケルズ賞(仏ダービー(芝2100m))の勝ち馬だ。道中5番手追走から直線残り500mで鞍上クリストフ・スマヨンが馬群の外に持ち出され、ほとんど馬なりのまま先頭に立ち、最後は後続に5馬身差をつける楽勝だった。この日のシャンティイの馬場は Souple(重)で、道悪になるとが多い秋のロンシャンへの対応力も高そうだ。ただしルジェ師はレース後、今後の同馬は10F路線を進む予定で、秋の最大目標はG1愛チヤンピオンSになるとコメントしている。

一方のエミリー・アップジョン(牡3、父シーザースターブ)は、3日にエプソムで行なわれたG1英オークス(芝12F6Y)の2着馬である。タタソールズ10月1歳市場のブック2にて、6万ギニー(当時のレート

買された同馬。5月11日にヨークで行なわれたG3ミュージドラS(芝10F5Y)を制し、デビューから無敗の3連勝を飾った。臨んだ英オークスでは、オッズ2.5倍の1番人気に支持された。アクシデントがあつたのは発馬直後で、躊躇したエミリー・アップジョンが大きく体勢を崩し、鞍上のフランキー・デトリーが危うく落馬すところだったのである。その影響で後方から2頭目を追走することになった同馬は、直線に向くと外埒沿いを猛然と追い込むことにならなかった。これを見たブックメーカー各社は、オーケスで一番強い競馬をしたのはエミリー・アップジョンであるとして、凱旋門賞におけるオッズを急降下させたのだった。

すなわち、上位人気に名を連ねているのは、いずれも3歳勢なのだ。

G1・3勝の実績を誇るハリケーンレーン(牡4、父フランケル)が、オッズ8~9倍で、古馬では最上位の評価となっている。ちなみに現時点での日本調教馬は、ドウデュースがオッズ13~21倍の5~11番人気、シヤブリヤールがオッズ15~21倍の6~11番人気、タイトルホルダーがオッズ21~26倍の11~13番人気となっている。